



見えにくさのある子どもたちは、漢字の一点や一画が見えにくいのために、読み間違いをしまったり、書き誤ったりすることがあります。漢字を間違えてしまう大きな原因は、「漢字を正確に習得していないこと」です。正しい漢字を書くために必要な支援の一つを紹介します。

1 漢字の書字の誤り

見えにくさのある子どもの漢字書字の誤りは、主に次のようなものがあげられます。

(1) 部品の間違い

走（土の上下の一が同じ長さ） 園（土の上下の一が同じ長さ）
館（食が食に） 径（彳→糸） 努（又→女） 客（各→谷） 荷（荷→イ苛）

(2) 同音異義語との混同

一軒家（家→屋） 組織（識） 夜が明ける（開ける）
代わる（→変わる） 真実（真→新） 写す（写→移） 所持品（持→事）
追求（求→急） 羊毛（羊→洋） 菜の花（菜→七） 積極的（積→接）

(3) 似た字との混同

組（細） 元日（元旦） 捨う（捨う→捨う） 待つ（待つ→持つ） 帳（帳→幅）
印象（印象→的象） 機械（機械→械機）

(4) 送り仮名の間違い

食べる（→食る） 買って（→買て） 住まい（→住い） 別れる（別かれる）

◎部品の間違いについて ～令和の「令」の正しい書き方は？～



写真 首相官邸HPより

2019年今年の漢字にも選ばれた令和の「令」。みなさんはどのように書きますか？

これについては、新元号発表後にも話題になったので見聞きした方も多いと思います。

これについては、「文化庁によると、『令』の文字は様々な字形が認められ、正しい形を一つに絞ることはできない。迷った場合は、ホームページにある『常用漢字表の字体・字形に関する指針』を参考にしよう呼び掛けている」（中日新聞2019.4.2）との記事もあります。

では、その指針を見てみるといずれの「令」でもよいとのことでした（図1、2）。これを参考にすると、例えば「走」の土の上下の横棒が同じ長さであっても間違いとは言えません。同指針によると、「字の細部（字形）に違いがあっても、その漢字の骨組み（字体）が同じであれば、誤っているとはみなされない」とのことです。

見えにくい子どもが漢字を習得していく過程では、“大枠”から“細部”へという二段構えの視点が必要だと考えます。止めはねはらいや線の長さこだわらず書く段階ができるようになったら、細部に注意して書く段階へ進むのがよいでしょう。

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
令	令令令令令令 鈴鈴鈴鈴鈴鈴
叱	叱叱叱叱叱

図1 令の書き表し方の例

常用漢字表	代表音訓	配当学年	印刷文字の字形の例	手書き文字の字形の例
令	レイ	4	令令令令	令令令 など

図2 令の印刷文字の例と手書き文字の例

2 漢字学習法の提案 ～部品の間違い、同音異義語との混同、似た字との混同を防ぐ～

(1) 漢字学習プリント

訂	唐	敏	漬	盆	→ 新出漢字
訂正するのテイ	唐突のトウ、唐草模様のから	敏感なのピン	漬け物のつけける	盆地のボン	→ 音訓読み
「訂」 「盆」	「唐」 「敏」	「敏」 「盆」	「漬」 「盆」	「分」 「盆」	→ 部品の唱え方
改訂	唐紙	敏速	漬け物	盆地	→ 用例
校訂 訂正	唐草模様の唐突	敏感な敏速	なすを漬ける	田舎 盆地	

図3は、漢字学習の一つの方法として、漢字を構成する部品の組み合わせにより学習する、「ミチムラ式漢字学習法」を参考にした新出漢字の学習プリントです。

これは、新出漢字がどのように読んで使われているのか（同音異義語との区別）、どう覚えるとよいのか（部品の組み合わせによる覚え方）、どのような語として使われているか（用例）という順序性をもって学習できるものです。

図3 漢字学習プリント

(2) iPadアプリの活用 ～書き順、空書き～

ア 書き順の確認

書き順を確認する際は、「常用漢字筆順辞典」が使いやすいです。こちらは無料版と有料版がありますが、筆者は無料版を使っています。

小学校では空書き（指で漢字を書く）をしますが、中学生になると恥ずかしさもあり、「空書きはイヤだ！」となります。しかし、部品を確認したり、書き順を確認したりする際には有効な方法と思います。iPad上で再現できるのがこのアプリです。



← 手書きや音声で検索したい文字を入力すると、画面上部に候補がでます。



← 候補をタップすると、グレーで漢字が示され、次画が赤で示されます。

イ 確認テスト

漢字を確認するとき、「書き取り漢字練習」が使いやすいです。これは画面上で漢字テストを行います。この学習を取り入れることで、どこを間違っているのかが子ども自身が明確に分かることにつながります。何よりも、間違えたと思ったら何度でも書き直しができるのもよいと思います。



← 白チョークで板書しているような画面です。



← 正解の際は大きなマルが表示され、次の問題に進みます。

3 見えにくい子どもへの漢字指導

見えにくい子どもの漢字学習においては、漢字を構成する線の長さや、とめはねはらいの間違ひは、まずは許容すべきものとして指導していくことが必要と考えます。

何をどこまで書けるようになるかといのでしょうか。これについては、指針も示すように、漢字の骨組み（字体）を捉えて書けることが求められるのです。そのためには、漢字を構成する部品を正しく書けることが必要です。間違った覚えが定着してしまうと、学び直しには時間がかかりますし、年齢が高くなってからだと、本人の自尊感情にも関わってきます。やはり、小1段階からの継続的な指導が必要だと考えます。

見えにくい子どもの示す困難さは、漢字の情報の細部が入りにくいこと、曖昧な情報になりやすいことにあります。漢字の部品を正しく覚えること、同音異義語に注意することなどに留意して指導や学習を進めていくことが必要です。

【参考】

- (1) 首相官邸HP (https://www.kantei.go.jp/jp/headline/singengou/singengou_sentei.html)
- (2) 中日新聞HP 改元特集より(「令」書き方、一つに絞れない)
- (3) 文化庁(2016) 常用漢字表の字体・字形に関する指針
- (4) 点字学習を支援する会(2012) 視覚障害者の漢字学習 常用漢字 中学校編、点字学習を支援する会漢字学習支援グループ
- (5) ミチムラ式漢字カード(小1～小6、中学生)